

2016年4月の熊本地震で、城全体の石垣面積の3割にあたる約2万3600平方メートルが崩落した。石垣の修復に約20年、積み直す石の数は約7万～10万個といわれている。2018年7月23日、来年までの外観復旧をめざす大天守の石垣の積み直し作業が始まった。

復興まだまだだった熊本城

熊本地震で大きな被害を受けた熊本城は、2年たった今も、石垣が崩れたり、城にひびがはいったりして、復興はまだ少ししか進んでいない。僕は地震の怖さを改めて感じた。



竹山孝之介 記者

クレーンや鉄骨に囲まれて再建が進むコンクリート製の天守閣を見て、僕はお城を見ているというより最新のビルを見ているみたいだった。城の中の復旧作業では、新たに特殊なゴムを

使って揺れを吸収するダンパーや、耐震用の鉄骨が取り付けられている。熊本城を直すのにかかる時間は、天守閣が3年、全体で20年ととても時間がかかる事に驚いた。それだけ

に、災害の悲惨さを改めて感じた。地震はいつでもどこでも起きるので、みんなが防災意識を高め、対策をして、2度とこのように大きな被害が出ないようにする事が大切だと思う。

城か自宅か、どっちを直す？

修復工場の進む熊本城を継続して取材している朝日新聞熊本総局の大畑滋生記者の案内で、城を間近に見た。

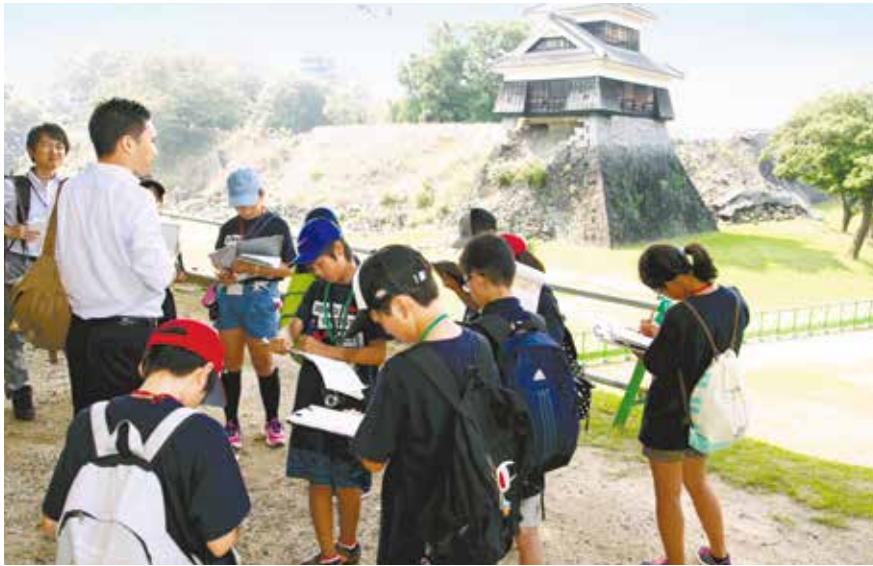


宮田和京 記者

熊本城は、完全に直すのに20年の歳月と600億円の出費がかかるという。これについては「城を直すのはあとにして、自分の家をはやく直して」という声と「城をはやく直して」という声があるようだ。僕なら、「城なんてどうでもいい。自分の家を直してほしい」と思う。あえて壊れたままの城を残していくという

方法もある。熊本城の壊れた姿を見にくる観光客がいるかもしれないし、これが観光地になるかもしれない。また、観光で得たお金で家などを直すこともできる。

一方で、熊本城を元通り復元することにより、元気になる人もいる。出来上がった城は未来につながっていく。「熊本城は町の人たちのシンボルだから、町の人々に大切に」とも考えた。あなたなら、家を先に直しますか、それとも城を先に直したいですか？



2度の地震により、甚大な被害を受けた熊本城。天守閣は、特殊なゴムを使って揺れを吸収するダンパーや鋼管が取り付けられ、復旧作業とともに耐震化工事が進められている。



お城の近くは震災後、ほとんど手つかずの場所もあり、立入禁止の場所も多くあった。地震の威力と復興の難しさを間近で感じた。